

所 報

一九八四年一月から二月までの一年間における専修大学社会科学研究所の諸活動を報告する。

一、機構および人事

(一) 所員総会

1 第四三回定例所員総会（一九八四年六月一六日、神田校舎12A会議室）

議来 (1) 高橋七五三所員を議長に選出、(2) 三輪芳郎所長あいさつ、(3) 新所員の委嘱の報告、(4) 一九八三年度事業報告、会計監査報告——以上の諸報告を承認、(5) 三輪所長あいさつ、(6) 一九八四年度事業計画案および予算案を原案通り承認決定。

2 第四四回定例所員総会（一九八四年二月一五日、神田校舎12A会議室）

議事 (1) 二瓶敏所員を議長に選出、(2) 三輪芳郎所長あいさつ、(3) 一九八四年度事業経過報告および会計経過報告、(4) 一九八五年度事業計画案および要求予算案を原案通り承認決定。(5) 一九八五—八六年度の所長、事務局長、三部長を次の通り選出。所長——三輪芳郎所員、事務局長——平川東亜所員、第

一部長（総合理論）——佐藤博所員、第二部長（現状）——宇都栄子所員、第三部長（歴史）——加藤幸三郎所員。

(二) 運営委員会および事務局の構成

一九八四年度の運営委員会、事務局の構成は次の通り。

運営委員会——三輪芳郎所長、佐藤博所員（総合理論部長）、石渡貞雄所員（現状部長）、加藤幸三郎所員（歴史部長）、望月清司経済学部長、吉岡恒明所員、福島新吾所員、麻島昭一所員、殿村晋一所員、内田弘事務局長。会計監査——吉岡健次所員。

事務局——〈事務局長〉内田弘、〈研究会担当〉溝田誠吾、小沼堅司、宇都栄子、池本正純（社研プロジェクト担当）、矢吹満男（同）、〈編集担当〉柴田弘捷、平井俊顕、福島義和、上村達男、〈文献資料担当〉作間逸雄、沢野徹、〈財政担当〉泉武夫、室井義雄、以上一四所員。

(三) 所員・所外研究員の異動

第四三回定例所員総会に先立つ運営委員会（六月九日）の議を経て次の三名の新所員が委嘱された。石村修法学部助教、大谷正法学部講師。前田泰男商学部講師。

また今田治弥、大友福夫、遠山茂樹、西田勲、林基の五氏は一九八四年三月三日をもって本学を退職されたので、運営委員会の議を経て所員の委嘱を解き、所外研究員に委嘱さ

れた。山田一郎所外研究員は六月八日急逝された。慎んで冥福を祈る。

以上により第四三回定例所員総会時における所員は九九名、所外研究員は二六名である。

二、研究活動

(一) 定例研究会

(1) 二月一五日(水) 生田社研

「高柳信一著『学問の自由』をめぐって」 嶺井正也所員

(2) 二月二〇日(月) 生田四号館視聴覚教室

「九〇日世界一周旅行——現代世界の実情報告」 青木信治所員。

(3) 五月一九日(土) 神田分室

「池本正純著『企業者とは何か』をめぐって」 報告、池本正純所員、コメント、宮本光晴所員。

(4) 六月三〇日(土) 神田分室

「オレンジの貿易自由化の経済効果」 森宏所員。

(5) 一二月一八日(火) 生田社研

「最近の中国を視察して」 室井義雄、三輪芳郎の両所員。

(二) 社研プロジェクト

(1) 二月二六日(日) 生田校舎四二〇視聴覚教室

「鹿島臨海工業地帯の開発について」 安川徳三氏(茨城県

鹿島開発局鹿島開発課)。

(2) 三月五日(月) — 九日(金) 鹿島臨海工業地帯工場見学および実態調査

三月五日、鹿島セントラルホテル

「鹿島臨海工業地帯の歴史と現状」 報告者、柴田弘捷、溝田誠吾の両所員。

三月六日、住友金属工業鹿島製鉄所および東京電力鹿島発電所の見学。

三月七日、鹿島石油鹿島製油所および三菱油化鹿島工場の見学。

三月八日、昭和産業鹿島工場の見学。

三月九日、鹿島地域社会調査。

(3) 社研プロジェクト・シンポジウム——市場の日本の特性をめぐって、六月二日(土) 神田分室

「日本の中央卸売市場の特質と問題点」 秋谷重男氏(埼玉大学経済短期大学部)

「日本の商品取引所の現状と課題」 木原大輔氏(全国商品取引員協会連合会)

(4) 社研プロジェクト研究会

(i) 七月一四日(土) 神田分室

「現代アメリカにおける経済学の諸潮流」 報告、中島巖、原田博夫両所員。

(ii) 七月二一日(土) 神田分室

日新聞記者)

「最近における財政の諸問題」藤井威氏(大蔵省主計官)
(iii) 七月二十四日(水)——二十五日(木) 合宿研究会、於
宇都宮市(合宿研究会と共催)

七月二十四日

①「電々株式会社」と情報化の実情」井上照幸氏(高
崎経済大学)

②「ME化の進展と経営『合理化』の現局面」青山茂
樹氏(静岡大学)

③「情報化と派遣労働の実態」長井偉訓氏(慶応大学)

④現代企業のFA、OA化の進展の事例報告——電気
産業中心に(柴田弘捷所員)、自動車産業中心に(溝
田誠吾所員)。

七月二十五日、工場見学

①キャノン(株) 宇都宮工場

②日産自動車(株) 栃木工場

(iv) 社研プロジェクト会議、一〇月二十七日(土) 神田分
室 社研プロジェクトの研究成果を一九八五年度『年報』
(第二〇号)で「特集」で公表することに決定した。

(v) 一一月二十四日(土)、神田分室

「現代資本主義とスタグフレーション」報告、米田康彦氏
(福島大学) コメント、矢吹満男所員。

(vi) 一二月一日(土) 神田分室

「最近の財政からみた政治と経済の相克」三浦昭彦氏(朝

(三) 特別研究会

(1) 三月一六日(金) 神田12A会議室

「一九三〇年代とケインズ」報告、加藤寛孝氏(創価大学
教授)、コメント、鈴木直次、平井俊顕の両所員、司会、平
川東亜所員。

(2) 四月一四日(土) 神田校舎12Aに会議室。

「現代ソ連経済の諸問題——計画経済と経済メカニズムを
中心に」報告、B・A・マルトウイノフ氏(ソ連邦科学アカ
デミー・世界経済国際関係研究所副所長)、コメント、池本
正純、矢吹満男の両所員、司会、内田弘所員。

(四) 所員の聞き書き

大友福夫(元) 所員および高橋七五三所員の聞き書き作業が
進行中である。

(五) グループ研究助成

一九八四年度は次の五件(いずれも「助成規定A」)が助
成された。

①「地方都市の果す経済機能の理論的および経験的研究」
(一九八二年度発足、代表蔵下勝行所員ほか四所員)

②「経済理論とリアリティ」(一九八二年度発足、代表平川

東亜所員ほか六所員)

③「企業内教育および労働組合教育の歴史と現状」(一九八三年度発足、代表柴田弘捷所員ほか五所員)

④「高度産業社会における国家と経済」(一九八四年度発足、代表鶴田俊正所員ほか二所員)

⑤「明治国家史の研究」(一九八四年度発足、代表隅野隆徳所員ほか九所員)

六) 個人研究助成

一九八四年度は次の五件を助成した。なおこの助成には、原則として交付年度より起算して三年以内に本研究所在指定もしくは承認した公表誌に研究成果を公表する義務が課せられている。

①青木信治所員「財政根拠論の体系」

②宮本光晴所員「労働市場構造に関する研究」

③平井俊顕所員「ケインズ『一般理論』の成立史論」

④三田晴義所員「統計的漸近理論」

⑤池本正純所員「会社組織の経済分析」

(七)『専修大学社会科学研究所月報』の刊行

二四六号(一九八四年一月)

水川侑所員「ビール産業における製品差別化」

二四七号(同年二月)

池田博行所員「トルコ交通政策史(1)」

二四八号(同年三月)

池田博行所員「トルコ交通政策(2)」

二四九号(同年四月)

内田弘所員「機械論から剰余価値学説史へ」

二五〇号(同年五月)

森宏所員「オレンジ輸入自由化のわが国柑橘におよぼす経済効果」

二五一号(同年六月)

社研特別研究会報告「ソ連の計画経済と経済メカニズム」

二五二号(同年七月)

宮本光晴所員「経済人の現在」

二五三号(同年八月)

西田勲所外研究員「(最終講義)アメリカと日本の財政」

二五四号(同年九月)

平井俊顕所員「A Mathematical Formulation of Keynes' *Treatise on Money*

二五五号(同年一〇月)

溝田誠吾所員「生産自動化の現段階」

二五六、二五七号(同年一一、一二月)

西田勲所外研究員「閑書き(題未定)」

(内田 弘記)